

中学・高校生の学習に対する態度の差異 — 認知・行動・情緒の 3 側面からの検討 —

○ 児玉裕巳 (こども鎌倉臨床教育研究所)

石隈利紀 (筑波大学)

問題と目的

生徒らの学習の悩みはなかなか減らない現状 (内閣府, 2007) がある中, 本研究では悩みは認知・行動・情緒のあらゆる面にわたっていること, 学習行動や方略の不適応と関連があることを問題とした。そこで中学・高校生の学習の実態を捉えることを意図して, 学習に対する態度尺度を作成し, 中学・高校生の差異を検討することを目的とした。

方法

予備調査: 2 つの予備調査 (中学・高校生 14 名への半構造化面接, および中学・高校生 7 名への個別学習相談の実施) をとおして学習に対する態度の項目を収集し, カテゴリー化を行い, 質問紙原案を作成した。**調査 1:** 2012 年 10 月～12 月に中学 1～3 年生 715 名と高校 1～3 年生 890 名を対象に学習に対する態度の質問紙調査を行った。**調査 2:** 2012 年 12 月～2013 年 1 月に中学 2 年生 97 名と高校 2 年生 103 名を対象に学習に対する態度尺度と自律的動機づけ尺度 (西村ら, 2011) の質問紙調査を行った。

結果と考察

態度尺度の検討 調査 1 で得られた中学・高校生の有効データを一緒にして探索的因子分析 (最尤法, Promax 回転) を行った結果, 認知・行動・情緒のいずれの側面も 3 因子が見出された (Table 1～3)。中学・高校生活を別にして確認的因子分析を行ったところ, 許容範囲内の適合度が得られた。信頼性を検討したところ, α 係数は概ね許容できる値を示し, I-R 相関係数と調査 2 で検討した再検査信頼性係数 ($r=.57\sim.89$, いずれも $p<.001$) は満足できる値を示した。妥当性を検討したところ, ポジティブな態度 (下位尺度) であるコスト受容・習慣的な積極行動等と「学習時間」との間に弱い～中程度の正の相関 ($r=.24\sim.51$, いずれも $p<.001$) が見られ基準関連妥当性を確認した。ポジティブな態度 (下位尺度) と自律的動機づけとの間に中程度以上の正の相関 ($r=.46\sim.72$, いずれも $p<.001$) が, また統制的より自律的動機づけとの強い相関が見られ, 態度と学業適応との関連が示唆された。

中学・高校生の差異 中学生と高校生活を別にして下位尺度間の相関係数を算出し, さらに相等性の検定を行った。その結果, 対処回避はほとんどの

ポジティブな態度と負の相関があり中学生が高校生より有意に関連が強かった。遂行目標の重視は高校生がテスト課題対処と正の相関があり中学生より有意に関連が強かった。学習の不安は高校生が関与肯定・テスト課題対処と正の相関があり中学生より有意に関連が強かった。次に, 学年 (6 水準) を独立変数, 態度の下位尺度を従属変数とする 1 要因分散分析を行った。その結果, 認知的側面では, 関与肯定とコスト受容は 6 年間ほぼ同じ水準を保ち続け, 遂行目標の重視は高 2・高 3 になると低くなることが示された。行動的側面では, 概ね学年が進むにつれて習慣的な積極行動とテスト課題対処は低くなり, 対処回避は高くなることが示された。情緒的側面では, 充実感は高校移行期が一番低く, 統制感が高 2 まで下がり続けて高 3 になって再び高くなり, 学習の不安は学校移行期あたりが最も高いことが示された。

Table 1 学習に対する態度の認知的側面の因子分析結果

質問項目 (項目数)	M	SD	α	I-R
F1 学習の肯定 (8)	4.06	0.65	.81	.46～.64
(項目例) 勉強は自分の可能性をひろげるのにやくだつ				
F2 コスト受容 (6)	3.06	0.75	.74	.37～.55
(項目例) いそがしいときでも勉強は時間がとれるものだ				
F3 遂行目標の重視 (5)	3.21	0.83	.66	.31～.49
(項目例) 成績で自分の価値が決まってしまうと思う				
因子間相関: F1F2 (.67), F1F3 (.15), F2F3 (.02)				

Table 2 学習に対する態度の行動的側面の因子分析結果

質問項目 (項目数)	M	SD	α	I-T
F1 習慣的な積極行動 (7)	2.62	0.83	.86	.54～.68
(項目例) 勉強はやりたくないときでも時間をつくるようにしている				
F2 テスト課題対処 (4)	3.52	0.83	.73	.39～.68
(項目例) テストや受験にでる科目には力を入れて勉強ができています				
F3 対処回避 (4)	3.50	0.78	.65	.36～.47
(項目例) わからない科目は適当にやってしまうことがある				
因子間相関: F1F2 (.49), F1F3 (-.46), F2F3 (-.23)				

Table 3 学習に対する態度の情緒的側面の因子分析結果

質問項目 (項目数)	M	SD	α	I-T
F1 充実感 (5)	2.55	0.90	.88	.52～.82
(項目例) 勉強をおもしろいと感じる				
F2 統制感 (3)	2.38	0.86	.84	.68～.73
(項目例) 自分は勉強にしっかりと取り組んでいると感じる				
F3 学習の不安 (3)	3.69	0.92	.78	.54～.69
(項目例) 勉強がうまくいかないのでと不安に感じる				
因子間相関: F1F2 (.56), F1F3 (.07), F2F3 (-.09)				